ピンチはチャンス！どうやって存続させるかではなく、どのように魅力化していくか

▼日野高校と地域の未来を考えるフォーラム

少子高齢化が進み、入学者が年々減少しつつある地域唯一の高校『日野高校』の現状を知り、地域とともに魅力と活力ある学校づくりを考えようと、11月16日、日野高校で「日野高校と地域の未来を考えるフォーラム」が開かれました。

島根県海士（あま）町にある隠岐島前（おきどうぜん）高校の魅力化コーディネーターの岩本悠さんが、自身が手掛けた事例を発表したほか、県外の高校の地域と深くかかわり、魅力あふれる学校づくりを進めている事例を聞き、これからの日野高校の魅力化について学びました。

【講演】

『地域連携による魅力ある高校づくり』と題した講演会では、岩本さんが取り組んだ事例を紹介しながら、「人・物・金がないことを言い訳にせず、こんなところでもできるんだと、生徒の自信につなげたい」と、5年前、隠岐島前高校の魅力化プロジェクトを立ち上げた様子を話しました。

まず、現状と課題を説明。「入学者が減れば教員も減少する。学校が廃校になると、若者は子どもを連れて島を離れてしまう。島根県教育委員会も高校の活性化策を打ち出さず、また、地域住民も学校について関心がなかった」と、取り組み始めたころの地域の様子を説明しました。

そんな中で〝生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域を生かしたい〟学校づくりに着手。地域が主体の魅力化計画を作成しました。計画の柱を『地域活性化を担う学校』とし、▼地域の作り手の育成▼学びを地域で生かす人財を育てるカリキュラムの作成▼地域が『学校』という、高校の存在意義を再定義させました。地域が抱える課題と育成計画を組み合わせ、地域住民とともに商品開発や観光、定住策などを生徒が実践し、地域貢献ができる高校へと生まれ変わったのです。

取り組みの結果、新入生の約4割が島外から入学し生徒数が増えたほか、Iターン者数は320人以上と子育て世代の移住が増えるといった効果が表れています。

また、卒業生が都会へ進学し、都会や海外で〝隠岐〟の魅力を伝えているとのこと。「人と人のつながりが深い、小さな地域だからできる教育と人づくりに取り組むことで、たとえ進学などでこの地を離れてしまっても、子育てをしようと島へ帰ってきます。地域総がかりで魅力化に取り組みましょう」と、岩本さんは参加者にエールを贈りました。

当日は、県内の学校関係者、県や町のほか、日野郡3町の住民お

郷土芸能部が荒神神楽を披露

よそ100人が参加し、熱心に耳を傾けました。

参加者とも積極的に意見を交わす岩本さん

【パネルディスカッション】

《テーマ》
日野高等学校の魅力づくりに向けた地域の役割

《コーディネーター》
岩本悠さん

《パネリスト》
・景山享弘（日野町長）
・吉元操さん（島根県海士町財政課 課長）
・田中哲也さん（兵庫県立村岡高校 校長）
・浅田尚宏さん（兵庫県立千種（ちくさ）高校 校長）

講演に続き、地域を生かした高校の活性化に取り組む先進校の事例から、日野高校の魅力化について探ろうと、パネルディスカッションが行われました。

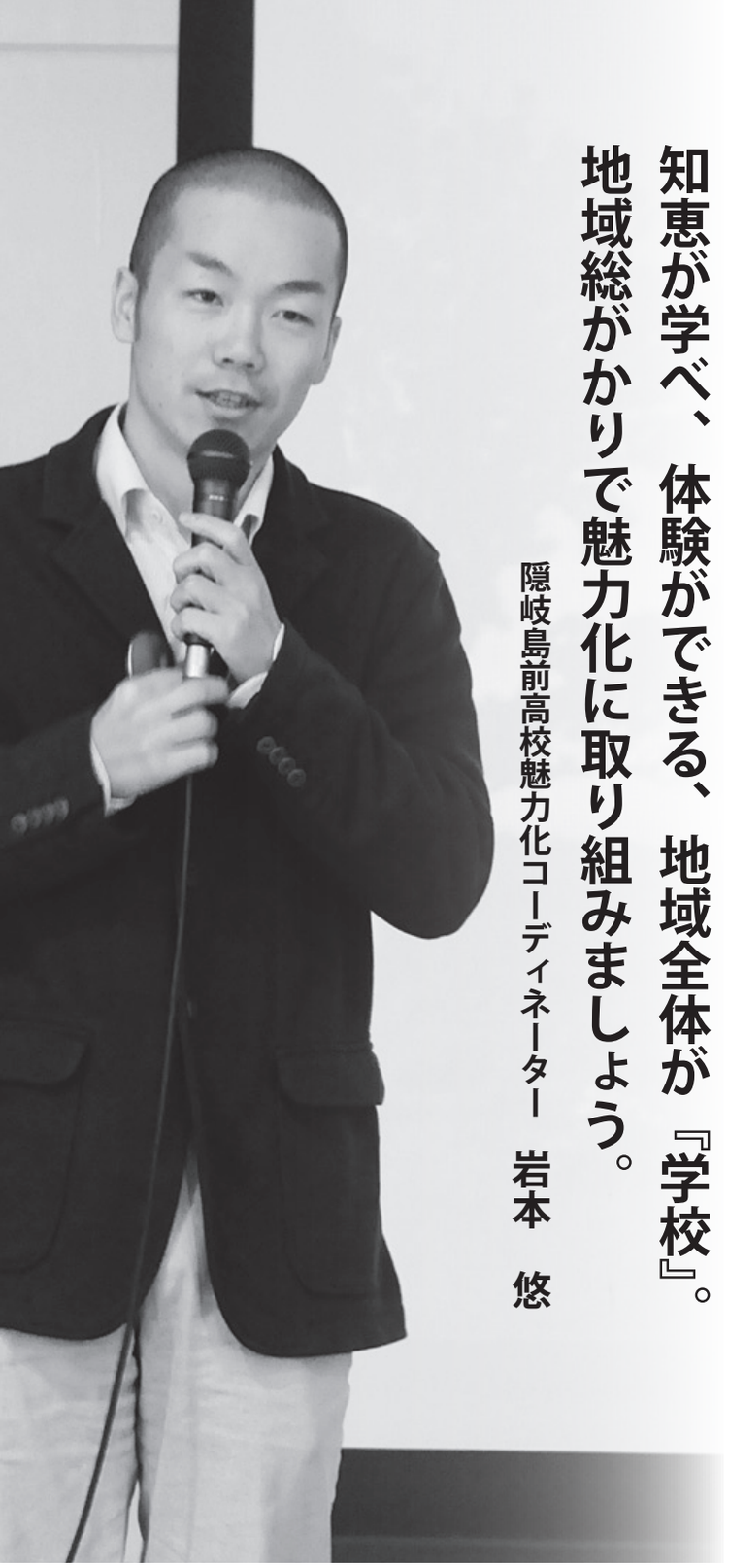
まず、海士町財政課長の吉元さんが、島前高校の生徒に対する島留学の寮費などの補助や隠岐内航船の無償化、部活動遠征費補助など、町の財政支援策を紹介しました。

村岡高校校長の田中さんは、地元のアウトドアスポーツを教材にしたコースを来春から設置し、現在全国から生徒募集を行っていると紹介。地域の協力で受け入れ先である下宿を整備し、町からは下宿費補助を受けたことを説明しました。

千種高校校長の浅田さんは、地域が廃校の危機感を持ち、学校存続を支援する会を立ち上げたことや、進学先に選んでもらえるように地元中学校と『連携型中高一貫校』として取り組み、幅広い年齢層の生徒の交流や専門教科教員を中高が互いに派遣し、6年間の計画的な教育指導を行っていることを説明しました。

各先進校の取り組みを聞いて岩本さんは「これから日野郡が、どのようなまちづくりをしていくかが大きい。地域資源を活用し、農林業などの6次産業化を目的とした日本トップレベルの教育に取り組むなど、地域の未来をつくる教育を」と、日野高校の魅力化に期待しました。

町内に日野高校があり、『日野高校の在り方を考える協議会』の会長も務める景山町長は「先進校の取り組みを聞いて、魅力化に向けたヒントをいただきました。日野高校を中心に地域づくりを進めたい」と、力強く話しました。



知恵が学べ、体験ができる、地域全体が『学校』。
地域総がかりで魅力化に取り組みましょう。

隠岐島前高校魅力化コーディネーター　岩本　悠